

#### 第4回「芥川作曲賞」決まる

江村 哲二氏の作品「ヴァイオリン協奏曲第2番〈インテクステリア〉」に

「芥川作曲賞」の第4回受賞曲は、8月27日（土）午後3時より東京・サントリーホールでの演奏会形式による公開選考の結果、江村 哲二氏の作曲による「ヴァイオリン協奏曲第2番〈インテクステリア〉」に決定した。同氏には、賞状とあわせて賞金50万円が贈られる。

芥川作曲賞は、戦後のわが国音楽界の発展に多大の貢献をされた故芥川也寸志氏の功績を記念して、サントリー音楽財団が日本作曲家協議会の支援を得て1990年4月に創設したもの。故人の深い音楽愛、明晰な音楽観と音楽の振興によせられた熱情を追慕して、わが国の新進作曲家のもっとも清新にして将来性に富む作品を対象に、演奏会形式により公開選考するという、作曲賞としてはわが国で初めてのユニークな試みとなっている。

第1回芥川作曲賞は、高橋 裕氏の作曲による「Symphonic Karma（シンフォニック・カルマ）」に、第2回は、山田 泉氏の作曲による「〈一つの素描〉ピアノとオーケストラによるⅡ」に、第3回は、菊池 幸夫氏の作曲による「ピアノと管弦楽のための『曜変』」と猿谷 紀郎氏の作曲による「ファイバー・オブ・ザ・ブレス（息の綾）」の2作品に贈られている。

なお、この日、公開選考演奏会に先だって、第2回受賞者・山田 泉氏の受賞記念サントリー音楽財団委嘱作「〈十二の風景〉ヴィオラとオーケストラによる」の初演が行なわれた。

江村 哲二（えむら てつじ）

#### <受賞理由>

独学でありながら作品のコンセプトとリアリゼーションの完成度が極めて高い。独創性も豊かで、自由で清新な感覚に道、また、ソロとオーケストラのバランスも見事である点が高く評価された。

#### <略歴>

1960年3月7日大阪市生まれ。86年名古屋工業大学大学院修了。流体力学の分野で工学修士。作曲家であるとともにコニカ（株）オプト事業部・研究員としての顔を持つ。作曲は独学。89年〈弦楽四重奏曲“窓”〉で第6回現音作曲新人賞。91年〈「時に」オーケストラのための〉が第13回日本交響楽振興財団作曲賞入選。92年〈オーケストラのための「インテクステリア第5番」〉が第2回ウィトルド・ルトスワフスキ国際作曲

コンクール（ワルシャワ・フィル主催）第1位受賞。同作品は国際現代音楽祭 I S C M 93にも入選。平成4年度文化庁舞台芸術創作奨励特別賞受賞。

#### 第4回芥川作曲賞 選考経過

1. 1994年5月12日（木）午後1時より東京紀尾井町、ザ・フォーラムにおいて予備選考会を開催。1993年4月1日より1994年3月31日の間に国内外で初演された日本人作曲家の管弦楽作品69曲を対象に選考し、芥川作曲賞にふさわしい清新にして豊かな将来性を秘めた以下3作品を「第4回芥川作曲賞」の候補に選定した。選考委員は武満 徹、松村禎三、黛 敏郎の3氏。（50音順）

- 江村哲二作曲 ヴァイオリン協奏曲第2番「インテクステリア」  
"L' INTÉXTERIÉUR" Concerto pour violon et orchestre n° 2  
（初演：1993.10.6「都政施行50周年記念都民コンサート」）
- 正門憲也作曲 管弦楽のための“遊戯”  
Amusement for orchestra  
（初演：1993.7.13  
「現代日本のオーケストラ音楽」第17回演奏家）
- 小山 薫作曲 ヴァイオリン協奏曲  
Violin Concerto  
（初演：1994.2.23 現代の音楽展'94「オーケストラのタベ」  
（演奏順）

2. 1994年8月27日（土）、午後3時よりサントリーホールにおいて上記3曲を公開演奏（指揮 小松一彦、東京フィルハーモニー交響楽団、ヴァイオリン 高田あずみ、荒井英治）。演奏終了後、15分の休憩をはさんで、直ちにステージにおいて3選考委員による公開討議を行なった結果、「第4回芥川作曲賞」受賞局に、江村哲二氏の作曲による「ヴァイオリン協奏曲第2番＜インテクステリア＞」が選定された。

3. 公開選考終了後直ちに同ステージにおいて贈賞式が行なわれ、サントリー音楽財団理事長・佐治敬三より賞状、賞金（50万円）が授与された。  
なお、江村氏には、サントリー音楽財団より交響管弦楽曲の新作が委嘱され、完成次第同財団主催のコンサートで初演される。（委嘱料100万円）

〔ご参考〕

### 「芥川作曲賞」について

#### 1. 名称

「芥川作曲賞」

#### 2. 選考対象

毎年、前年の4月1日から同年3月31日の間に国内外で初演された（放送を含む）新進日本人作曲家による交響管弦楽曲の中からもっとも清新かつ将来性に富む作品1曲を選定します。

#### 3. 選考委員

芥川作曲賞運営委員会（サントリー音楽財団より4名、日本作曲家協会より3名、計7名で構成）が数名の選考委員を委嘱します。（本年は、武満 徹、松村禎三、黛 敏郎の3氏。）

#### 4. 賞

- (1) 賞状、賞金50万円。
- (2) 受賞作曲家には新しい交響管弦楽曲を委嘱します。委嘱料100万円。
- (3) 委嘱作品は完成後、サントリー音楽財団の主催する公演で初演します。

#### 5. 選考方法

- (1) 第一次選考会において候補作品数曲を選出します。
- (2) 公開演奏会形式で最終選考会を開きます。選考方法としては、まず候補作品数曲を一括演奏し、終了後その場で選考委員が公開討議を行ない、受賞作1作を選定、贈賞します。

#### 6. 贈賞期間

1991年より2000年までの10年間に10回の贈賞を行ないます。

#### ●過去の受賞者

- |            |  |
|------------|--|
| 第1回（1991年） | 高橋 裕<Symphonic Karma>                                |
| 第2回（1992年） | 山田 泉氏<一つの素描 ピアノとオーケストラによるⅡ>                          |
| 第3回（1993年） | 菊池 幸夫<ピアノと管弦楽のための『曜変』><br>猿谷 紀郎<ファイバー・オブ・ザ・ブレス（息の綾）> |

以 上